

月刊 都響  
March 2023



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！  
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023  
3/5

# Subscription Concert

## 第 969 回定期演奏会 C シリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／ベン・グラスバーク

チェロ／ブリュノ・ドルプレール

♪サン＝サーンス：歌劇『サムソンとデリラ』より「バッカナール」(約8分)

♪サン＝サーンス：チェロ協奏曲第1番 イ短調 op.33 (約19分)

♪リャードフ：交響詩《魔法にかけられた湖》op.62 (約7分)

♪ストラヴィンスキー：バレエ音楽《ペトルーシュカ》(1947年版) (約35分)

 東京都交響楽団

# PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、フランスとロシアが生んだドラマティックな音楽が演奏されます。

## サン＝サーンス：歌劇『サムソンとデリラ』より「バッカナール」

この曲はフランスの作曲家カミーユ・サン＝サーンス（1835～1921）が作曲したオペラ『サムソンとデリラ』の中の有名な一曲です。オペラは旧約聖書に基づいたストーリー。ペリシテ人に支配されて苦しむヘブライ人たちが、怪力の持ち主サムソンをリーダーとして戦いますが、サムソンがペリシテ人の美女デリラの誘惑のワナにはまって囚われてしまいます。ペリシテ人がそれを喜び舞い踊る場面の音楽で、この音楽が登場します。東洋風のメロディーが印象的なリズムカルな曲です。



## サン＝サーンス：チェロ協奏曲第1番 イ短調 op.33

続いてサン＝サーンスによる作品です。当時フランスではオペラやバレエがとても盛んでしたが、交響曲や協奏曲といった器楽音楽はあまり傑作が生み出されていませんでした。サン＝サーンスは、お隣のドイツに負けにくいフランス独自の器楽曲を盛り上げよう！と立ち上がり、「国民音楽協会」というグループを1871年に設立しました。その翌年の1872年に作られたのがこのチェロ協奏曲第1番です。

この曲は3つの部分で構成されており、切れ目なく続けて演奏されていきます。第1部はオーケストラが力強く短い和音を鳴らしたあと、独奏チェロが駆け降りるようなメロディーの第1主題を奏でます。第2主題のややゆったりとしたメロディーもチェロが提示します。やがて弦楽器が軽やかに弾むような音楽を奏で第2部に入ります。チェロはオーケストラにロマンティックな歌を重ねていきます。チェロが低音域のメロディーで落ち着いたあと、オーボエが第1主題を奏でるところから第3部です。チェロとオーケストラのドラマティックな掛け合いが展開し、明るく光差すようなコーダで華やかに締めくくられます。

## リャードフ：交響詩《魔法にかけられた湖》op.62

作曲者のアナトリー・リャードフ（1855～1914）はロシアの作曲家です。ロシアでは19世紀の半ばに、5人の男たちが「力強い集団」という作曲家グループを組んで立ち上がり、ロシアの民謡などを取り入れた独自の音楽を発表していきました。そのメンバーであったムソルグスキーやリムスキー＝コルサコフに才能を認められたのが次世代人のリャードフです。リャードフには才能があっても、大きな作品を書き切る根気がなかったようです。この交響詩《魔法にかけられた湖》は、



オペラを書き始めたものの完成できなかったリヤードフが、断片を用いて作った曲です。とても静かに始まり、オーケストラの響きはたえずおだやかです。小波に揺れる湖面の広がりを感じさせる美しい音楽となっています。

## ストラヴィンスキー：バレエ音楽《ペトルーシュカ》(1947年版)

最後はロシア出身でフランスのパリでも活躍したイゴール・ストラヴィンスキー(1882~1971)のバレエ音楽です。《ペトルーシュカ》というバレエは、1911年にパリで初めて上演されました。次のようなストーリーが、4幕で描かれていきます。



時は1830年代のロシア。街の広場は謝肉祭で賑わい、見世物小屋の周りで人々が集っています。人形芝居の小屋には、ペトルーシュカ、バレリーナ、そしてムーア人という三体の人形がいました。実は人形たちにも感情があり、芝居小屋が閉じている間も動き回っています。ペトルーシュカはバレリーナに恋をしています。しかしバレリーナはムーア人と仲良くワルツを踊っています。一方、広場では、人々が楽しく過ごし、農夫が熊を連れて登場したり、仮装舞踏会が開かれたりしています。そこに恋のライバルのムーア人に追い回されたペトルーシュカが、小屋から外に飛び出していきます。人々の目の前で、無惨にもペトルーシュカはムーア人に殺されてしまいますが、亡霊となって現れるのです。

音楽は、ロシア民謡などを素材に取り入れながら、ピアノ、打楽器、金管楽器が独特の音色を響かせて展開していきます。賑やかで、そしてちょっと不気味さもある音楽を楽しみましょう。

文/飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)

## 指揮 ベン・グラスバーグ Ben GLASSBERG



ルーアン・ノルマンディ・オペラ(フランス)音楽監督、ウィーン・フォルクスオーパー首席客演指揮者、リヨン国立管准客演指揮者を務めている。

イギリス出身。2017年、23歳で第55回ブザンソン指揮者コンクールにて優勝して世界中の注目を集めた。今シーズンはルーアン・ノルマンディ・オペラでヴェルディ『リゴレット』、ブリテン『夏の夜の夢』など、ウィーン・フォルクスオーパーでワーグナー『さまよえるオランダ人』などを指揮するほか、グラン・カナリア・フィルハーモニー管弦楽団、スウェーデン放送交響楽団などに客演。都響とは初共演。

## チェロ ブリュノ・ドルブレール Bruno DELEPELAIRE

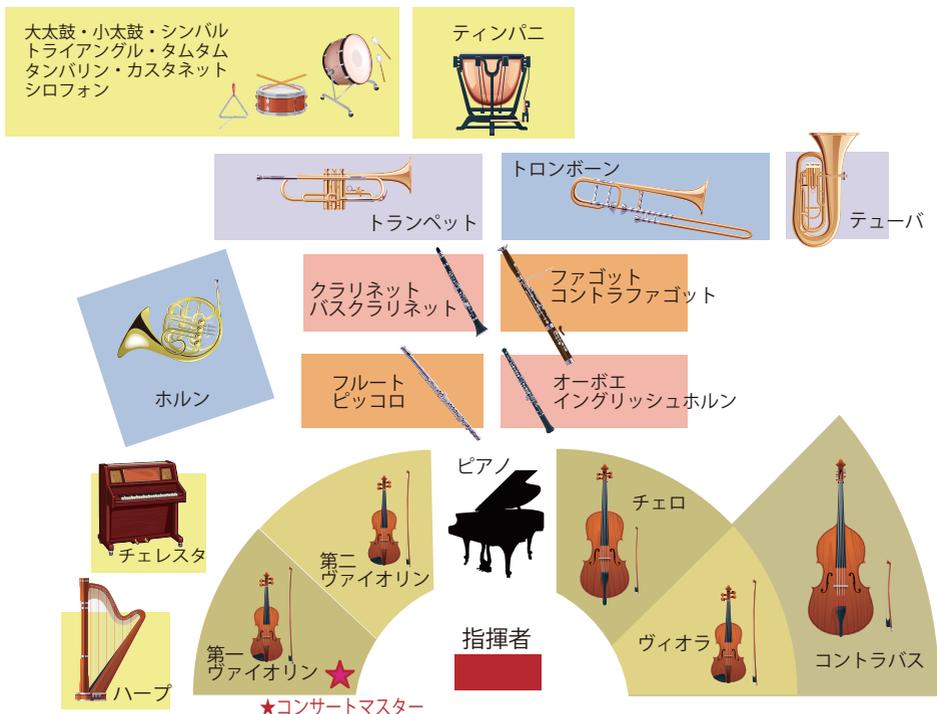


2012年カール・ダヴィドフ国際チェロ・コンクールおよび2013年マルク・ノイキルヘン国際器楽コンクールで優勝。2013年にベルリン・フィルの第1ソロ・チェリストへ就任。

これまでにサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ボーンマス交響楽団などと共演。カヴァティーナ弦楽四重奏団、ベルリン・ピアノ・クァルテット、「ベルリン・フィル12人のチェリストたち」のメンバーとしても活躍している。使用楽器はマッテオ・ゴフリラー(カロリーナ・ブラベルク財団より貸与)。

# オーケストラ配置図（3月5日 第969回定期演奏会Cシリーズ）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。  
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてくださいね。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

※《ペトルーシユカ》ではピアノがヴァイオリンとチェロの間に入ります。ご注目ください!!

## TMSO 東京都交響楽団



©Rikimaru Hotta

東京オリンピックの記念事業として  
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。